見たい！ 聞きたい！ 学びたい！

SOOだ！子どもフェスタへ行こう!!

青少年育成の日の10月21日に末吉総合センターで「第18回曽於市子どもフェスタ」が開催されました。参加した約200人の子どもたちの笑顔が輝く素敵な一日となりました。

午前の部

①テーマ考案者の和田侑哉さん（柳迫小）　②大隅中学校吹奏楽部の演奏　③少年の主張発表者のみなさん
④青少年海外研修『シアトル』派遣事業発表　⑤青少年リーダー研修『屋久島』事業発表
⑥鶴岡市・曽於市友好都市間青少年交流事業発表

午後の部【わくわく体験コーナー】

①茶道体験　②ユニカール　③変身！おまわりさん　④防災について学ぼう！
⑤しゃぼん玉あそび　⑥福祉体験　⑦スライムづくり　⑧食育コーナー

少年の主張大会

少年の主張大会には市内小中学生の代表が出場し学校・家庭・地域での経験や将来の夢などについて堂々と発表しました。

審査結果（敬称略）

【小学生の部】

●最優秀賞
「小さな学校を、人いっぱいの賑やかな空間に！」～子供も大人もお年寄りも皆一緒に活動し、つながり合うまちづくりを目指して～
内山　芽愛　（岩北小6年）

●優秀賞
「本気が教えてくれたこと」
藤田　育美　（末吉小6年）

●優良賞
「頑張る姿で恩返しを」
板川　乃愛　（中谷小6年）
「きまりを守って」
植田　庵莉　（柳迫小6年）
「個性が輝く未来へ」
川野　凜々愛　（諏訪小6年）
「みんなで作り上げた応援団」
野村　風華　（大隅北小5年）
「わたしの周りの思いやり」
原田　愛子　（月野小6年）

【中学生の部】

●最優秀賞
「私たちのふるさと」
小竹　萌愛　（末吉中3年）

●優秀賞
「犯罪のない社会を目指して」
小河　香幸　（大隅中2年）
「手話」
白川　凜　（財部中2年）

中学生の部【最優秀賞】

私たちのふるさと

末吉中学校　3年　**小竹　萌愛**

みなさん、私たちの住んでいる曽於市は好きですか。私は大好きです。

曽於市には様々ないいところがあります。

まず、自然が豊かなところです。悠久の森や桐原の滝など都会では味わうことのできない曽於市ならではのスポットもたくさんあります。これらは曽於市の観光として注目を浴びています。

それから、特産である黒牛・黒豚、柚にお茶、お米が有名です。鬼追いや流鏑馬のように古くから代々伝わる伝統芸能など曽於市に住んでいることをとても誇りに思います。

そんな曽於市について気になることがあります。その一つが人口減少です。インターネットで詳しく調べてみました。平成17年と令和2年を比較すると、7,722人減少していることがわかりました。

高齢者の割合は約4割で曽於市でも少子高齢化が進んでいることがわかります。私はもっと曽於市を魅力的なまちになってほしいと思っています。

このように考えるきっかけになったのは、2月に市の総合センターで行われた「本音を知る会」に生徒会で参加させていただいたことです。中学生、高校生、大人の方たちが集まって、今の社会、学校、地域、家庭についてどう思っているか本音を話し合うというものでした。いくつかのグループに分かれて話し合い、一つのレポートにしてまとめて発表するという流れで進めていきました。私たちのグループでも曽於市についていくつかの意見がでました。

まず、変えていきたいことの一つが交通についてです。曽於市には志布志線が通っていて駅の周りももっと賑やかだったと聞いています。その電車も今ではなくなり、バスの本数も少ないです。バスを利用した人は同じような感想をもったのではないでしょうか。同じグループの中高生も同じ思いを抱いていることがわかりました。

次に、大型の店が少ないということです。コンビニやお店はあり、不自由することはありませんが、例えば服を買う際は、隣の都城市に出かけることがほとんどだと思います。

この二つの意見から私たちにできることはないかと考えました。変えていくことはとても難しいことですし、できたとしてもとても時間がかかると思います。話し合いの結果、私たちがたどり着いた意見は、曽於市の長所、良いところを生かそうというものでした。「自然が豊か」ということを生かしたスポットやカフェを作り、魅力をどんどん発信して人に集まってもらうというものでした。

曽於市をもっとより良く、魅力あるまちにするために私たち中高生のできることは何だと思いますか。私は、若者がもっと意見を出し合って、若者目線の発想をもっと発信することだと思います。

学校では、総合的な学習の時間に曽於市について、自然や産業、観光などについて発表したり、文化祭で劇に取り入れたりして発信する機会がありました。調べ、まとめる中で、お互いに意見を出し合うことの大切さを感じました。

職業講話や職場体験学習では、曽於市で働いている人、曽於市を一生懸命盛り上げたり支えてくれている人たちに出会いました。

私は今、進路について考えています。将来県外へ行くかもしれませんが、曽於市は私にとって大切なふるさとです。だからこそ曽於市がよりよいまちになるよう若い力を出し合っていきたいです。

「本音を知る会」では、改めて私が住む曽於市の魅力と未来について世代の違う人と一緒に考えることができました。

曽於市が若い力で、もっと発展していくといいなと思います。

小学生の部【最優秀賞】

「小さな学校を、人いっぱいの賑やかな空間に！」

～子供も大人もお年寄りも皆一緒に活動し、つながり合うまちづくりを目指して～

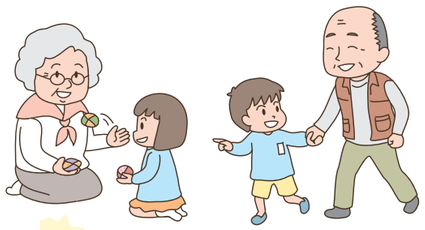
岩北小学校　6年　**内山　芽愛**

私の通う岩北小学校は児童数7名、3学級のとても小さな学校です。みんなとても仲良く先生方ともたくさん関われるので、毎日楽しく過ごしています。また、地域の方々もいつも応援してくださっています。けれど一方では、「遊ぶときに人が足りない、学習で意見を交換する相手が少ない、それぞれの行事は楽しいけれど賑やかさに欠ける」と感じている現状もあります。また学校の周りに高齢者の方々はたくさん住んでいますが、実際に関わる機会は限られています。

そこで私は、学校内であまり使われていない教室を利用して人とのつながりを持つプランを考えました。例えば、私たちの学校生活と同時に、学校の中で高齢者デイサービスや外国人の日本語教室、社会人の講座等を開設し、多くの人が学校に集まる機会を生み出します。それぞれを同じ校舎で行えれば、お互いに交流する時間を生み出しやすくなるだけでなく、休み時間には自由に交流したり、一緒に遊んだり、昔の事や外国の事等を教えてもらったりすることもできるという新たな利点も生まれます。今まで限られた関わりしかできなかったことが、いつでも学校の中で自然にできるようになり、その時間も増える。その結果、お互いの理解や思いやりの心が大きくなり、つながりが深くなると考えます。岩北小学校を一つの例とすると、曽於市内の小規模の学校でもこのような活動を行うことが可能ではないでしょうか。

このような取り組みができれば、学校は小さくても賑やかにコミュニケーションを取りながら生活でき、様々な年齢の人が一緒に過ごせる魅力的なまちづくりが広がると思います。運営にかかる費用や運営方法などには難しい課題があるかもしれませんが、少子高齢化がますます進んでいくことを考えると、とても価値がある取り組みだと考えます。

今は小さくて寂しさもある私たちの学校ですが、この取り組みが実現すれば、学校が自然と賑やかになり、多くのコミュニティーが共存することになります。その結果、「誰もが通いたい魅力的な学校」ができ、私たちが大人になったとき、こんな学校に自分の子供を通わせようときっと考える人が増えると思います。そして、曽於市に住みたいという人が増え、少子化に歯止めがかかるかもしれません。

私は、新たな施設や企業を作ることではなく、市民が知恵を出し合い、今ある施設を活用することで、市の財政を考慮した活性化プランができると思います。

大人になっても住みたい曽於市にするために、市民の一員として、今後も積極的に考え、できることから実行したいです。